

哲学文化政策

1)特定対象

1-1 生命観と対象と応用

生命観と人間観を土台性に持ち、個々人、家族、事業体、産業、産業構造、都市と地方、国家、国際性などという社会性に及ぼせる基礎と対象と適用の創造系を生む。生命と創造と社会と自然と生態の性格を作る。

1-2 全体性・社会観

基礎観点が希薄化すると歪な経済や歪な政治や歪な教育などという専門分化の過剰性が進行する。金融資本主義などという現象になって、顕著に歪性が顕在化する。根本性を反映して、哲学と教育経済と政治と産業として社会観が作られる。健全な生命観を基礎にして社会観に反映される。

1-3 特定概念性

そして、「法律」や「金融」や「情報」「芸術」等という特定概念はどのような性格と位置づけを生むか。「平等」「自由」「平和」「文化」「文明」などという抽象観はどうか。「科学」「技術」などという動態性を表す概念の根拠性や起源性は何か。「生物物理」と「心理情動」と「言葉概念」という基礎を土台性にもって適正な基礎と専門と大局を作る発想と創造に及び、自他との良好な感性と生命力が存続する。

1-4 個々人性

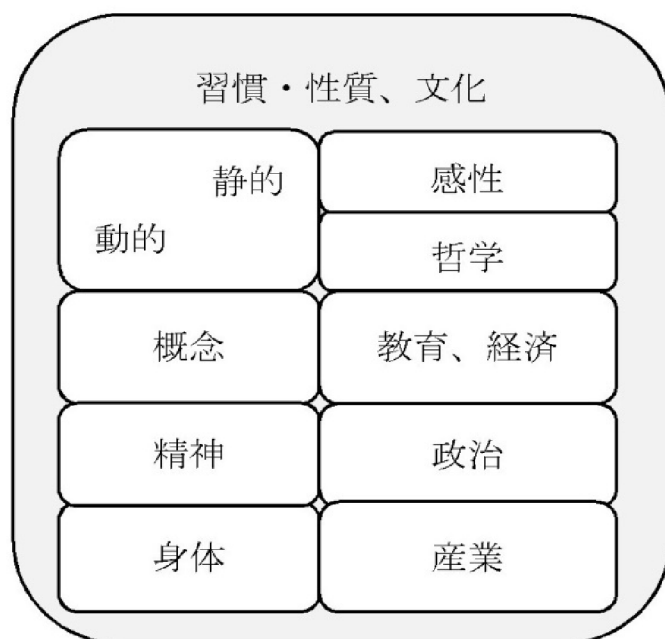
個々人という観点は、身体性を主とした人間観を生む。個々で存在する事は出来るか。感性を省いた個々人という姿は常軌を逸した性格を作る。人間のミクロ的な側面からの適正観を問い掴み、普遍的不変の基準性を起こし変動性に対面し最良性を作る発想と規則性を有する生命観と人間像と生態観を産む。

1-5 概念図

1-5-1 全体性

		静的	根本且つ大局性			
			生命観人間観：相関と習慣			
			感性	観念	精神	身体
抽象	生態観		生命	創造	社会	自然
	社会観		哲学	教育 経済	政治	産業
	国際 国家		理念	意思 形成	政策 全体	個別 政策
準抽象	都市と地方					
	産業構造 産業					
	事業体		理念性	意思 形成	政策 全体	個別 政策
具象	家族		家訓	意思 形成	政策 全体	個別 政策
	個々人		感性	観念	精神	身体

1-5-2 社会観



1-5-3 基礎と大局と全体個別特定



2) 観測評価予測性

2-1 性質と体質の歪化

根本性の歪化した対象に陥らぬように、生命や人間や創造という基礎観点が精査される。妙に財力や権力に依存して外界を支配従属させる体質が進む。概念や領域観を引き出す作用が弱く物的力による秩序を求める歪性が現れる。或いは、支離滅裂な言葉や概念を散発させて露出性を高め、知名度によるピンハネ型の搾取と支配を求める歪性が出現する。暴力性と詐欺性といった過剰性の認識を生む。

2-2 設計と製造と流通と資源管理

製造という生産性に対し「流通性過多、広告性過多、金融性過多、情報性過多」などという特殊領域性が強められる。根本観点から見てどのような産業構造に映るか。妙に力に依存性を高めた社会の枠組みにないか。

2-3 無自覚性・ロボット化

上からの力に受動性の高まる人形と機械性を作る様な流れが増すと、愚衆的ポピュリズムや病んだ資本主義という様相が生まれる。力への依存と外界の支配従属という基調の画一性と強権性を齎せる。

2-4 歪な流通性

言葉や概念も自己の観点から再構成させ稼働に連ねる態度を省き、無自覚と自己不在で、右から左に流通させ糧を得る歪性を生じさせる。力任せに量を裁き、糧を得る構造が強まる。感性の歪化と感覚過多の病んだ権力志向と独裁性が作られる。

2-5 自律性の喪失

力と活用の適正を外し保身と利己性に権力や財力を用いる割合の増す歪性が生まれる。自律性の喪失と無法性の世界が拡大する。こうした負け犬症という恥知らずの体質を存続させると、負の循環系と病理性を常態する空間全域の性格・性質に広がる。

3)適正化の作為

3-1 根源と根幹と大局と個別特定

具象と抽象の整合を求め、頭と体と精神と感性の繋がる概念と創造と習慣を生む。生命観という根本観念が希薄な状態による金融観や経済観等を招き、根本性の歪化した特殊作用の伸長や過剰という現象に陥る。健全な根源性と根幹性を有する創造力と生命観が作られる。感性と観念と精神と身体の良い在り方を問い根本原理性と定まり、対象性を想定し一貫した性格の領域と広がる軌道をもって人間と生態の永続的な世界観を実現する。

3-2 質量の適正

根本的な観点に歪性を有する者が大きな力を得て力任せに外界を操作する態度が強められる。無思考物質性という無機質合理的因果と生産系が広げられる。規模や量の発想が強く、質への関心が減退し、規格量産の需給と寡占制に及び、歪な社会関係が産み出される。領域の中心性が歪化すると負の連鎖と拡大が加速する。

3-3 哲学と文化

哲学という特定領域に健全な生命観が起こり、教育や経済や政治と産業の性格に回り文化という長期様式を存続する。妙に、構造的に依存し外界を従属させる根の歪性が強まるほどに生命と人間の根本性が病む。暴力と詐欺に支配された生命と人間と創造と社会性と生態を広げ深める。

3-4 物理対応と概念導出

受動的な物理依存の体質に対し、健全な感性から言葉や概念、領域観、世界観を表し、過剰化した物理性の生命の崩れを補正する作用が求められる。思想世界観を問い表す作用が作られる。物理対応に偏り、概念の探究や提起と共通理解の作為を喪失すると、短変数の機械性と画一の世界が進行する。これでは国益も国際益も、痩せ細らせる。国益とは何か。健全な思考が働かず受動反応が増し短期的利益追求が増し、人間と生態の長期軌道を破壊させる。

3-5 長期性の概念と稼働の規則性

即効性と偏狭的な感覚が強まると根本性と大局観を委縮化し歪な利益追求に外れる。「教育の独立性」などという観点を生み、一定の肯定感と尊重性が与えられる。どこの領域にも共通する同一性の尺度を揃え自領域に偏った過剰な利益追求に対する適正な制御に及ぶ自律や自制性を内蔵して内外との適正を遂げる仕組みが進む。根本且つ大局と個別特定の観点と相関の体系と周期を産む。

4)まとめ

以上の事を、動静概念と規則性の枠組みに配置し、個々の要素と相関と体系と周期が表される。一巡的完結性を有する領域概念となって一つの生命力が生まれる。哲学文化政策などという概念を生む。

動的	静的	長期原理性
	1)特定対象 2)観測評価予測性	3)適正化の作為